

東アジアの社会と文化

担当者 金 早雪

開講時期 前期 単 位 2

●講義の概要

経済発展にともなう社会・文化の変化について、韓国を中心に考察する。具体的には、李朝末の封建社会の変容、植民地「近代化」、解放後の経済優先政策、民主化後の韓国社会を取り上げる。可能な限り、中国・台湾、東南アジア諸国などとの比較考察も交えたい。

●講義の到達目標

経済発展を規定する要因は何か、経済発展にともなう社会や文化はどう変化するのか、あるいはなぜ変化しないのか、韓国の事例を知識として習得し、経済発展と社会・文化の関係进行分析する視角や方法を体得することを目指す。

●講義計画

- 第1回：朝鮮半島の歴史・文化と儒教的規範
- 第2回：封建体制の揺らぎとウェスタン・インパクト
- 第3回：植民地朝鮮の「近代化」と生活破壊
- 第4回：植民地朝鮮の「社会事業」
- 第5回：朝鮮戦争と「外援」
- 第6回：朴正熙政権（1961～79年）と救護行政改革
- 第7回：経済成長と新たな社会・都市問題
- 第8回：経済成長とライフスタイルの変化
- 第9回：民主化（1987年）と市民福祉運動（1994年憲法裁判）
- 第10回：普遍的生活保障への福祉改革
- 第11回：現代韓国社会①青年失業
- 第12回：現代韓国社会②ジェンダー主流化
- 第13回：現代韓国社会③少子高齢化
- 第14回：現代韓国社会④保革対立
- 第15回：現代韓国社会⑤南北統一問題

●成績評価基準と方法

講義への取り組み（40点）と学期末レポート（60点）をもとに判定する。

講義への取り組みは、4回程度（各10点）の復習レポートをもとに評価する。

学期末レポートの評価は、①韓国における経済発展と社会・文化の変容の理解（30点）、②韓国と他の国との比較分析（30点）をもとに行う。

●テキスト又は参考文献

- ・テキスト：指定しない
- ・参考書：金早雪『韓国・社会保障形成の政治経済学』新幹社、2016年（大方の初出論文は、web『信州大学経済論集』から取り込める）。その他、受講生の関心に沿って紹介する。

●受講上の留意点

東アジアの経済発展に関心を持っていること。発表課題を課すこともある。遠慮なく質問や要望を出すなど、主体的に参加して欲しい。